

メロンえそ斑点病の病徴

農業研究センター 農産園芸研究所 病虫部

研究のねらい

近年、県内におけるメロンの栽培が盛んになるにつれて、メロンえそ斑点病の発生が増加しつつある。本病は、本県においては昭和60年頃、発生が確認された。当時は、プリンスメロンが主流であったため、ほとんど拡大しなかったが、アールスメロンの栽培の増加とともに発生が認識されはじめ、平成2年には、県下の大部分のメロン栽培地で発生が確認された。

本病はウイルス病であるため、現地で原因を確かめるのがかなり困難であるが、病徴に大きな特徴があるので、他のウイルス病との区別法等を整理し、今後のメロン栽培に役立てる。

研究の成果

1. メロンえそ斑点病の病徴は、アールスメロンの場合、大きく分けて6つに分けられる。

- (1) えそ斑点・・・・・・・・・・茎頂部の若い葉に現れる。必ずえそ斑点で、黄色斑点やモザイクとはならない。アールスメロンの場合、この病徴が本病のもっともおおきな特徴である。
- (2) 小斑点・・・・・・・・・・中位葉に現れる。直径1～2mmの小さな白色斑点である。
- (3) 大病斑(樹枝状病斑)・・下位葉に現れる。葉脈に沿ってえそを起こし、ひどくなるとつながってV字型になる。アールスメロンだけでなく、プリンスメロンやホームランスターメロンでも見られる。キュウリモザイクウイルス(CMV)にかかっても、同様の症状がでることがある。
- (4) トリアシ症状・・・・・・・・地際の茎に現れる。地際部がえそを起こし、鳥の足のように見える。プリンスメロンやホームランスターメロンでは、この症状だけのことが多い。
- (5) 茎えそ・・・・・・・・・・茎の下部や中部に現れる。
- (6) まきひげえそ・・・・・・・・まきひげがえそを起こす。

2. 注意点：

アールスメロンでは、上記の症状が1株内にすべて現れることが多いが、プリンスメロンやホームランスターメロンでは、トリアシ症状か大病斑しか現れないことが多い。症状だけで区別するには限界があるので、必ず最寄りの普及所や防除所に相談する。



写真1 上葉のえそ斑点



写真2 中位葉の小班点



写真3 下位葉の大病斑



写真4 地際部のトリアシ症状



写真5 茎えそとまきひげえそ